

# 保存処理製材品

管柱・間柱・筋交・貫・胴縁など、あらゆる部材に保存処理を施した製品です。

非通気工法:土台・大引・管柱・間柱・窓枠材

通気工法:胴縁・窓枠下地

通気工法:土台ふかし材

## 2つの事例

### 非通気工法

(柱・間柱・筋交など)

【柱・間柱へのAQ2種(JAS K3相当)の保存処理 ※樹種:桧KD材】

- ・断熱性能のアップを目的として外断熱を採用した場合、外壁の通気層がとれなくなることで、外壁を「**非通気工法**」とする事例があります。同工法で長期優良住宅の要件を満たすためには、**桧KD材であっても柱・間柱などにJAS K3相当の保存処理性能が必要**です。
- ・当社の深浸潤処理を施した製材品を採用いただくことで、JAS K3相当の品質を確保し、非通気工法においても、長期優良住宅の要件を満たすことができました。**また、処理による寸法変化は発生しません。**

※薬剤はサンプルザーOPエース(深浸潤処理)を用いて保存処理を行います。

※対応する樹種・寸法につきましては、当社の営業担当までお問い合わせください。

### 通気工法

(ふかし材・胴縁など)

【ふかし材・胴縁・窓枠材などへの保存処理】

- ・断熱性能のアップを目的として外断熱を採用した場合、**増加した断熱の厚み分を外にふかす「ふかし材」**を設ける事例があります。
- ・長期優良住宅を取得するうえで、通気工法の場合は特定の樹種を除き**下地材にも保存処理が必要**となることから、当社で保存処理したふかし材・貫・胴縁・窓枠下地を採用いただきました。

※薬剤はペンタキュアニューBM(加圧注入処理)、またはサンプルザーOPエースST(表面処理)を用いて保存処理を行います。

断熱性能のアップによってこのような事例もあります。

2025年に施行された省エネ基準への適合義務化に向けた

